

学校コード F129110109206

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

事前相談

注2

奈良教育大学大学院 教育学研究科 教職開発専攻

【事前相談】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人奈良国立大学機構
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 企画・財務課

職名・氏名 ショニン ヨシダユウコ
主任 吉田木綿子

電話番号 0742-27-9139

（夜間） 0742-27-9116

e-mail kikakugr@nara-edu.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

＜教育学研究科 教職開発専攻（専門職課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	46
7. その他全般的事項	47

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人奈良国立大学機構

(2) 大学名

奈良教育大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒630-8528
奈良県奈良市高畑町

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長		(サカキ ヒロユキ) 榊 裕之 (令和4年4月)	令和4年4月1日、法人統合により理事長職を新設した(4)。
学長	(カトウ ヒサオ) 加藤 久雄 (平成27年10月)	(ミヤシタ トシヤ) (カトウ ヒサオ) 宮下 俊也 加藤—久雄 (令和4年4月) (平成27年10月)	令和4年3月31日付の加藤学長退任に伴い、令和4年4月1日、後任者が就任した(4)。
研究科長	(カトウ ヒサオ) 加藤 久雄 (平成27年10月)	(ミヤシタ トシヤ) (カトウ ヒサオ) 宮下 俊也 加藤—久雄 (令和4年4月) (平成27年10月)	研究科長は学長が兼任するため、令和4年4月1日、学長退任に伴い後任者が就任した(4)。

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教職開発専攻 教職修士（専門職）	教育学・保育学関係	2 年	50 人	- 人	100 人	新規入学者を募集集中	【基礎となる学部】 教育学部 【学位又は学科の分野】 設置届出書では「教員養成関係」と記載

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	50人 []	-人 []	0.86倍		
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	49 []	(-) []			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	49 []	- []			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	43 []	- []			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	43 []	- []			
入学定員超過率 B/A											0.86		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してしてください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	43 [-]	[-]	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/						/		/		[] ()	[] ()	[] ()
計			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()					[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について**内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数で記入**してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて記入**してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	43人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	0人	0人	
合計		0人		人	人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{43} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<教育学研究科 教職開発専攻(専門職学位課程)>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	及び育る実課程領域に開編する成 教育課程の開発と改善 特別支援教育の教育課程論	ESD-SDGsの理論と実践	1前・後	2		2					
		1後	2	1							
		1前	2	1	1						
	に的教関な科指する導の領方実域法践	指導と評価の一体化	1前	2		1					
		道徳教育の理論と実践	1前	2							1
		ユニバーサルな授業デザイン	1後	2		1					
	育生相徒談指に導関及するの教	生徒指導と子どもの心	1後	2		3	1				
		発達理論と教育実践	1前	2		1					
		発達障害児の理解と支援	1前	2		1	1				
	校学級級管営に営関及するの学	学級経営の基礎・基本	1前	2			1				
		学校組織とアカウンタビリティ	2前	2			1				
		特別支援教育と学校・学級経営	1後	2		1					
	の学在の校るり教の領方と開教す員	教師の発達とキャリア教育	1前	2		1					
		学校危機管理論	1後	2							1
		インクルーシブ教育原論	1後	2							1
	小計(15科目)	-	0	30	0	6	8	1	0	0	3
実践科目	実習科目	課題探求実習	1通	5		13	13	1			
		課題解決実習A	2通	5		12	12				
		課題解決実習B(特別支援教育)	2通	5		2	1	1			
		へき地学校実習	1・2前	2		2	5				
		小計(4科目)	-	5	12	0	13	13	1	0	0
	演習科目	遠隔教育実践演習	1後	2		2	2				
		デジタル教材作成演習	1前	2			1				
		学習の基盤力向上のためのICT活用演習	1前	2			1				
		STEAM教育演習	1後	2							5
		授業力応用演習	1前	2			1				
授業力基礎演習	1前	2			3				1		
小計(6科目)	-	0	12	0	2	5	0	0	0	6	
研究科目	研究科目	課題研究Ⅰ	1前・後	2		44	36	1			
		課題研究Ⅱ	2前・後	2		44	36	1			
	小計(2科目)	-	4	0	0	44	36	1	0	0	0
専門科目	学校教育マネジメント科目	カリキュラム・マネジメント実践論	1・2後	2		2					
		教師の成長と授業研究	1・2前	2		1					
		地域とつくる学校	1・2前	2		1					
		学級・学校づくりと特別活動	1・2後	2			1				
		学級経営実践論	1・2前	2			1				
		学級集団づくりの実践分析研究	1・2後	2			1				
		ESDと総合的な学習の時間特講	1・2後	2			1				
		ESDカリキュラムマネジメント	1・2前	2			1				
		ESDと地域創生	1・2後	2			1				
		SDGsフィールドワーク	1・2前	2			1				
		ESDと郷土教育・総合学習	1・2前	2		1					
		学校教育の情報化特論	1・2前	2		2					
		教育のためのデータサイエンス	1・2後	2			1				
		体系的なプログラミング教育	1・2後	2			2				
		授業支援ツールを活用した授業設計	1・2前	2			2				
小計(15科目)	-	0	30	0	7	7	0	0	0	0	
教育科発目達支援	学校教育と心理学	1・2前	2							1	
	子どもの「学び」と心理学	1・2前	2							1	
	教育と臨床	1・2前	2			1					

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	及び育る実課程領域に開編する成 教育課程の開発と改善 特別支援教育の教育課程論	ESD-SDGsの理論と実践	1前・後	2		1	1				
		1後	2		1						
		1前	2		1	1					
	に的教関な科指する導の領方実域法践	指導と評価の一体化	1前	2			1				
		道徳教育の理論と実践	1前	2							1
		ユニバーサルな授業デザイン	1後	2			1				
	育生相徒談指に導関及するの教	生徒指導と子どもの心	1後	2		3	1				
		発達理論と教育実践	1前	2		1					
		発達障害児の理解と支援	1前	2		1	1				
	校学級級管営に営関及するの学	学級経営の基礎・基本	1前	2			1				
		学校組織とアカウンタビリティ	2前	2			1				
		特別支援教育と学校・学級経営	1後	2			1				
	の学在の校るり教の領方と開教す員	教師の発達とキャリア教育	1前	2		1					
		学校危機管理論	1後	2							1
		インクルーシブ教育原論	1後	2							1
	小計(15科目)	-	0	30	0	7	7	1	0	0	3
実践科目	実習科目	課題探求実習	1通	5		14	11	1			
		課題解決実習A	2通	5		13	10				
		課題解決実習B(特別支援教育)	2通	5		2	1	1			
		へき地学校実習	1・2前	2		2	5				
		小計(4科目)	-	5	12	0	14	11	1	0	0
	演習科目	遠隔教育実践演習	1後	2		3	1				
		デジタル教材作成演習	1前	2			1				
		学習の基盤力向上のためのICT活用演習	1前	2			1				
		STEAM教育演習	1後	2							5
		授業力応用演習	1前	2			1				
授業力基礎演習	1前	2			1	3					
小計(6科目)	-	0	12	0	4	4	0	0	0	5	
研究科目	研究科目	課題研究Ⅰ	1前・後	2		51	31	1			
		課題研究Ⅱ	2前・後	2		51	31	1			
	小計(2科目)	-	4	0	0	51	31	1	0	0	0
専門科目	学校教育マネジメント科目	カリキュラム・マネジメント実践論	1・2後	2		2					
		教師の成長と授業研究	1・2前	2		1					
		地域とつくる学校	1・2前	2		1					
		学級・学校づくりと特別活動	1・2後	2			1				
		学級経営実践論(未開講)	1・2前	2			1				
		学級集団づくりの実践分析研究	1・2後	2			1				
		ESDと総合的な学習の時間特講	1・2後	2				2			
		ESDカリキュラムマネジメント	1・2前	2			1				
		ESDと地域創生	1・2後	2			1				
		SDGsフィールドワーク(未開講)	1・2前	2			1				
		ESDと郷土教育・総合学習	1・2前	2		1					
		学校教育の情報化特論	1・2前	2		2					
		教育のためのデータサイエンス	1・2後	2			1				
		体系的なプログラミング教育	1・2後	2			2				
		授業支援ツールを活用した授業設計	1・2前	2			2				
小計(15科目)	-	0	30	0	8	6	0	0	0	0	
教育科発目達支援	学校教育と心理学(未開講)	1・2前	2							1	
	子どもの「学び」と心理学(未開講)	1・2前	2							1	
	教育と臨床	1・2前	2			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		専任教員等の配置						兼任・兼任
			必修	選択	教員	准教授	講師	助教	助手	兼任	
教育発達支援科目	子どもの発達と理解と支援	1-2後	2								2
	学校臨床の理論と実践	1-2前	2	1							
	学級集団と心理学	1-2前	2	1							
	教育支援と子どもの権利	1-2前	2							1	
	学級集団のアクションリサーチ	1-2後	2	1							
	子どもの権利を踏まえた教育支援の実践	1-2後	2							1	
	保育・幼児教育の内容論と実践の展開	1-2前	2	1							1
	幼小連携・接続の理論と実践の展開	1-2後	2	2						1	1
	幼年教育の理論と実践	1-2前	2	1							
	魅力ある幼稚園・保育所・こども園等の運営	1-2後	2	2						1	1
	幼年心理の理論と保育	1-2前	2		1						
	幼児理解を深めるための実践研究	1-2後	2		1						
	子ども家庭福祉の理論と実践	1-2前	2								1
	子育て支援の理論と実践	1-2後	2								1
	保育・幼児教育の質の確保と向上	1-2前	2								1
	保育・幼児教育の質的研究	1-2前	2								1
	LD児・ADHD児の理解と支援	1-2後	2								1
	特別支援教育の生理・病理	1-2後	2	1							
	重度障害児の理解と支援	1-2前	2	1							
	特別支援教育アセスメント事例研究	1-2前	2	2	1	1					1
特別支援教育コーディネーター論	1-2後	2	2	1	1					1	
特別支援教育のシステム論	1-2後	2	1								
特別支援教育の心理学	1-2前	2								1	
自閉症児の理解と支援	1-2後	2				1					
小計(27科目)	-	0	54	0	6	3	1	0	0	10	
専門科目	ESDとしての教育実践(言語・社会科学領域)	1-2前	2		1						5
	ESDとしての教育実践(理数・生活科学領域)	1-2前	2		1						5
	ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)	1-2前	2		1						5
	教科の原理と授業づくり(国語)	1-2前	2	2	1						
	ICTを含む授業実践(国語)	1-2後	2	2	1						
	教科内容と教材開発(古典文学)Ⅰ	1-2前	2	1	1						1
	教科内容と教材開発(古典文学)Ⅱ	1-2後	2	1	1						
	教科内容と教材開発(近代文学)Ⅰ	1-2前	2	2							
	教科内容と教材開発(近代文学)Ⅱ	1-2後	2	2							
	教科内容と教材開発(語彙・文法)	1-2前	2								1
	教科内容と教材開発(音声言語)	1-2後	2	1							1
	教科の原理と授業づくり(社会)	1-2前	2	3	2						2
	ICTを含む授業実践(社会)	1-2後	2	1	2						2
	教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅰ)	1-2前	2	3	1						
	教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅱ)	1-2後	2	3	1						
	教科内容と教材開発(社会・公民Ⅰ)	1-2前	2	1	2						1
	教科内容と教材開発(社会・公民Ⅱ)	1-2後	2	1	2						1
	教科の原理と授業づくり(英語)	1-2前	2	1							
	教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす)	1-2前	2	2	2					3	1
	教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす)	1-2後	2	2	2					3	1
	教科内容と教材開発(英文法指導)	1-2前	2	2	2					3	1
	Organizing your classroom talk and assignments effectively	1-2後	2		1						
	教科の原理と授業づくり(小学校外国語)	1-2前	2	1							
	ICTを含む授業実践(小学校外国語・英語)	1通	2	2							
	教科内容と教材開発(小学校外国語)	1-2後	2	1							1
	教科の原理と授業づくり(算数・数学)	1-2前	2	1	1						
	ICTを含む授業実践(算数・数学)	1-2後	2	4	2						
教科内容と教材開発(解析)	1-2前	2	1	1							
教科内容と教材開発(確率・統計)	1-2後	2	1	1							
教科内容と教材開発(コンピュータ・応用数学)	1-2後	2	1	1							
教科内容と教材開発(代数)	1-2前	2	2								
教科内容と教材開発(幾何)	1-2後	2		1						1	
教科の原理と授業づくり(理科)	1-2前	2		5							
小計(27科目)	-	0	54	0	4	2	1	0	0	11	
教育発達支援科目	子どもの発達と理解と支援	1-2後	2								2
	学校臨床の理論と実践	1-2前	2	1							
	学級集団と心理学	1-2前	2	1							
	教育支援と子どもの権利	1-2前	2								1
	学級集団のアクションリサーチ	1-2後	2	1							
	子どもの権利を踏まえた教育支援の実践	1-2後	2								1
	保育・幼児教育の内容論と実践の展開	1-2前	2	1							1
	幼小連携・接続の理論と実践の展開	1-2後	2	2						1	1
	幼年教育の理論と実践	1-2前	2	1							
	魅力ある幼稚園・保育所・こども園等の運営	1-2後	2	2						1	1
	幼年心理の理論と保育	1-2前	2		1						
	幼児理解を深めるための実践研究	1-2後	2		1						
	子ども家庭福祉の理論と実践	1-2前	2								1
	子育て支援の理論と実践	1-2後	2								1
	保育・幼児教育の質の確保と向上	1-2前	2								1
	保育・幼児教育の質的研究	1-2前	2								1
	LD児・ADHD児の理解と支援	1-2後	2								1
	特別支援教育の生理・病理	1-2後	2	1							
	重度障害児の理解と支援	1-2前	2	1							
	特別支援教育アセスメント事例研究	1-2前	2	2	1	1					1
特別支援教育コーディネーター論	1-2後	2	2	1	1					1	
特別支援教育のシステム論	1-2後	2	1								
特別支援教育の心理学	1-2前	2								1	
自閉症児の理解と支援	1-2後	2				1					
小計(27科目)	-	0	54	0	4	2	1	0	0	11	
専門科目	ESDとしての教育実践(言語・社会科学領域)	1-2前	2		1						6
	ESDとしての教育実践(理数・生活科学領域)	1-2前	2		1						5
	ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)	1-2前	2		1						4
	教科の原理と授業づくり(国語)	1-2前	2	2	1						
	ICTを含む授業実践(国語)	1-2後	2	2	1						
	教科内容と教材開発(古典文学)Ⅰ	1-2前	2	1	1						1
	教科内容と教材開発(古典文学)Ⅱ	1-2後	2	1	1						
	教科内容と教材開発(近代文学)Ⅰ	1-2前	2	2							
	教科内容と教材開発(近代文学)Ⅱ	1-2後	2	2							
	教科内容と教材開発(語彙・文法)	1-2前	2								1
	教科内容と教材開発(音声言語)	1-2後	2	1							1
	教科の原理と授業づくり(社会)	1-2前	2	3	2						2
	ICTを含む授業実践(社会)	1-2後	2	1	2						2
	教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅰ)	1-2前	2	3	1						
	教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅱ)	1-2後	2	3	1						
	教科内容と教材開発(社会・公民Ⅰ)	1-2前	2	1	2						1
	教科内容と教材開発(社会・公民Ⅱ)	1-2後	2	1	2						1
	教科の原理と授業づくり(英語)	1-2前	2	1							
	教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす)	1-2前	2	2	2					3	1
	教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす)	1-2後	2	2	2					3	1
	教科内容と教材開発(英文法指導)	1-2前	2	2	2					3	1
	Organizing your classroom talk and assignments effectively	1-2後	2		1						
	教科の原理と授業づくり(小学校外国語)	1-2前	2	1							
	ICTを含む授業実践(小学校外国語・英語)	1通	2	2							
	教科内容と教材開発(小学校外国語)	1-2後	2	1							1
	教科の原理と授業づくり(算数・数学)	1-2前	2	1	1						
	ICTを含む授業実践(算数・数学)	1-2後	2	4	2						
教科内容と教材開発(解析)	1-2前	2	1	1							
教科内容と教材開発(確率・統計)	1-2後	2	1	1							
教科内容と教材開発(コンピュータ・応用数学)	1-2後	2	1	1							
教科内容と教材開発(代数)	1-2前	2	2								
教科内容と教材開発(幾何)	1-2後	2		1						1	
教科の原理と授業づくり(理科)	1-2前	2		5							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教	准	講	助	助			
専門科目	ICTを含む授業実践(理科)	1-2後	2			3	2					2	
	教科内容と教材開発(理科:物理分野)	1-2後	2			3						1	
	教科内容と教材開発(理科:化学分野)	1-2後	2			3							
	教科内容と教材開発(理科:生物分野)	1-2後	2			2	1					1	
	教科内容と教材開発(理科:地学分野)	1-2後	2			2	1					1	
	教科の原理と授業づくり(技術)	1-2前	2			1	2						
	ICTを含む授業実践(技術)	1-2後	2			1	2						
	教科内容と教材開発(技術:電気情報分野)	1-2前	2			1	1						
	教科内容と教材開発(技術:栽培分野)	1-2前	2			2							
	教科の原理と授業づくり(家庭科)	1-2後	2			2	2						1
	ICTを含む授業実践(家庭科)	1-2後	2			2	2						1
	教科内容と教材開発(生活デザイン領域)	1-2前	2			1	2						1
	教科内容と教材開発(生活科学基礎実践領域)	1-2前	2			1	1						2
	教科内容と教材開発(健康生活領域)	1-2後	2			2	2						
	教科の原理と授業づくり(音楽)	1-2前	2			2	2						
	ICTを含む授業実践(音楽)	1-2前	2			2	2						
	教科内容と教材開発(鑑賞・創作)	1-2後	2			2	2						
	教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ)	1-2後	2			2	2						
	教科内容と教材開発(表現領域・声楽)	1-2前	2			2	2						
	教科の原理と授業づくり(図画工作・美術)	1-2前	2			2	2						
	ICTを含む授業実践(図画工作・美術)	1-2後	2			1	1						1
	教科内容と教材開発<絵画分野・絵に表す一平面的な造形表現>	1-2前	2			1	1						1
	教科内容と教材開発<工芸分野・デザイン分野・工作に表す一用途のある造形表現>	1-2前	2			1	1						
教科内容と教材開発<彫刻分野・立体に表す一造形遊び一立体的な造形表現>	1-2後	2			1	1							
教科の原理と授業づくり(書道)	1-2前	2										4	
ICTを含む授業実践(書道)	1-2後	2										3	
教科内容と教材開発(漢字書法)	1-2前	2										3	
教科内容と教材開発(書道史)	1-2後	2										3	
教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)	1-2前	2										4	
教科の原理と授業づくり(保健体育)	1-2前	2			1	1							
ICTを含む授業実践(保健体育)	1-2後	2			2	4							
教科内容と教材開発(運動領域)	1-2後	2			1	1							
教科内容と教材開発(体育理論領域)	1-2前	2			1	1							
教科内容と教材開発(保健領域)	1-2後	2			1	1							
小計(67科目)	-	0	134	0	33	25	0	0	0	0	0	30	
合計(136科目)	-	9	272	0	44	39	1	0	0	0	0	50	

卒業要件及び履修方法

・専攻共通科目(共通五領域):16単位以上選択必修(各領域2単位以上必修)
 ・実践科目(実習科目):10単位以上選択必修
 ・実践科目(演習科目):4単位以上選択必修
 ・研究科目:4単位必修
 ・専門科目:12単位以上選択必修
 ・計46単位以上
 ※実践科目の実習科目について、「課題探求実習」5単位を必修とし、「課題解決実習A」5単位又は「課題解決実習B(特別支援教育)」5単位を選択必修とする。
 ※現職教員に関しては、実践科目における実習科目のうち「課題探求実習」を取得したものとみなす。
 (履修科目の登録の上限:38単位(年間))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教	准	講	助	助			
専門科目	ICTを含む授業実践(理科)	1-2後	2			3	2					2	
	教科内容と教材開発(理科:物理分野)	1-2後	2			3						1	
	教科内容と教材開発(理科:化学分野)	1-2後	2			3							
	教科内容と教材開発(理科:生物分野)	1-2後	2			2	1					1	
	教科内容と教材開発(理科:地学分野)	1-2後	2			2	1					1	
	教科の原理と授業づくり(技術)	1-2前	2			1	2						
	ICTを含む授業実践(技術)	1-2後	2			1	2						
	教科内容と教材開発(技術:電気情報分野)	1-2前	2			1	1						
	教科内容と教材開発(技術:栽培分野)	1-2前	2			2							
	教科の原理と授業づくり(家庭科)	1-2後	2			2	2						1
	ICTを含む授業実践(家庭科)	1-2後	2			2	2						1
	教科内容と教材開発(生活デザイン領域)	1-2前	2			1	2						1
	教科内容と教材開発(生活科学基礎実践領域)	1-2前	2			1	1						1
	教科内容と教材開発(健康生活領域)	1-2後	2			2	2						
	教科の原理と授業づくり(音楽)	1-2前	2			2	2						
	ICTを含む授業実践(音楽)	1-2前	2			2	2						
	教科内容と教材開発(鑑賞・創作)	1-2後	2			2	2						
	教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ)	1-2後	2			2	2						
	教科内容と教材開発(表現領域・声楽)	1-2前	2			2	2						
	教科の原理と授業づくり(図画工作・美術)	1-2前	2			2	2						
	ICTを含む授業実践(図画工作・美術)	1-2後	2			1	1						1
	教科内容と教材開発<絵画分野・絵に表す一平面的な造形表現>	1-2前	2			1	1						1
	教科内容と教材開発<工芸分野・デザイン分野・工作に表す一用途のある造形表現>	1-2前	2							2			
教科内容と教材開発<彫刻分野・立体に表す一造形遊び一立体的な造形表現>	1-2後	2							2				
教科の原理と授業づくり(書道)	1-2前	2							1			2	
ICTを含む授業実践(書道)	1-2後	2							1			1	
教科内容と教材開発(漢字書法)	1-2前	2							1			1	
教科内容と教材開発(書道史)	1-2後	2							1			2	
教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)	1-2前	2							1			3	
教科の原理と授業づくり(保健体育)	1-2前	2			1	1							
ICTを含む授業実践(保健体育)	1-2後	2			2	4							
教科内容と教材開発(運動領域)	1-2後	2			1	1							
教科内容と教材開発(体育理論領域)	1-2前	2			1	1							
教科内容と教材開発(保健領域)	1-2後	2			1	1							
小計(67科目)	-	0	134	0	34	21	0	0	0	0	0	31	
合計(136科目)	-	9	272	0	51	34	1	0	0	0	0	50	

卒業要件及び履修方法

・専攻共通科目(共通五領域):16単位以上選択必修(各領域2単位以上必修)
 ・実践科目(実習科目):10単位以上選択必修
 ・実践科目(演習科目):4単位以上選択必修
 ・研究科目:4単位必修
 ・専門科目:12単位以上選択必修
 ・計46単位以上
 ※実践科目の実習科目について、「課題探求実習」5単位を必修とし、「課題解決実習A」5単位又は「課題解決実習B(特別支援教育)」5単位を選択必修とする。
 ※現職教員に関しては、実践科目における実習科目のうち「課題探求実習」を免除できるものとする。
 (履修科目の登録の上限:38単位(年間))

- (注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**大学の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「〔未開講〕」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
 - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験・実習又は実技による授業科目」には「〔※〕」、「臨地実務実習」による授業科目には「〔臨〕」、「連携実務演習」による授業科目には「〔連〕」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- (1) —②授業科目目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・ 現職院生が実習科目及び課題研究以外の科目を1年目に履修できるよう、履修科目の年間登録上限を38単位から39単位へ改正。
- ・ 現職教員の実習免除についての記載を、より正確な表現に修正。
- ・ 令和4年4月に専任教員の昇任による専任教員等の配置の変更
 - ①「ESD-SDGsの理論と実践」の専任教員等の配置を「准教授2」から「教授1」「准教授1」に変更。
 - ②「遠隔教育実践演習」「教育のためのデータサイエンス」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
 - ③「教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす)」「教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす)」「教科内容と教材開発(英文法指導)」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授2」から「教授3」「准教授1」に変更。
 - ④「教科内容と教材開発<工芸分野・デザイン分野・工作に表す用途のある造形表現>」「教科内容と教材開発<彫刻分野・立体に表す・造形遊び・立体的な造形表現>」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」から「教授2」「准教授0」に変更。
- ・ 設置計画からの専任教員の変更及び担当教員の変更による、専任教員等の配置の変更
 - ①「ESDと総合的な学習の時間特講」の専任教員等の配置を「准教授2」に変更。
 - ②「ESDとしての教育実践(言語・社会科学領域)」の専任教員等の配置を「准教授1」「兼任・兼任5」から「准教授0」「兼任・兼任6」に変更。
 - ③「ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)」の専任教員等の配置を「兼任・兼任5」から「兼任・兼任4」に変更。
 - ④「教科の原理と授業づくり(社会)」の専任教員等の配置を「兼任・兼任0」から「兼任・兼任1」に変更。
 - ⑤「ICTを含む授業実践(社会)」の専任教員等の配置を「准教授2」「兼任・兼任1」から「准教授1」「兼任・兼任2」に変更。
 - ⑥「教科内容と教材開発(生活デザイン領域)」「教科内容と教材開発(生活科学基礎実験領域)」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
 - ⑦「教科の原理と授業づくり(書道)」の専任教員等の配置を「教授0」「兼任・兼任4」から「教授1」「兼任・兼任2」に変更。
 - ⑧「ICTを含む授業実践(書道)」「教科内容と教材開発(漢字書法)」の専任教員等の配置を「教授0」「兼任・兼任3」から「教授1」「兼任・兼任1」に変更。
 - ⑨「教科内容と教材開発(書道史)」の専任教員等の配置を「教授0」「兼任・兼任4」から「教授1」「兼任・兼任2」に変更。
 - ⑩「教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)」の専任教員等の配置を「教授0」「兼任・兼任4」から「教授1」「兼任・兼任3」に変更。
- ・ 計画時の専任教員が辞職し令和4年4月に兼任・兼任教員となったことによる専任教員等の配置の変更
 - ①「保育・幼児教育の内容論と実践の展開」の専任教員等の配置を「教授1」「兼任・兼任0」から「教授0」「兼任・兼任1」に変更。
 - ②「幼小連携・接続の理論と実践の展開」「魅力ある幼稚園・保育所・こども園等の運営」の専任教員等の配置を「教授2」「兼任・兼任0」から「教授1」「兼任・兼任1」に変更。
 - ③「ICTを含む授業実践(図画工作・美術)」「教科内容と教材開発<絵画分野・絵に表す一平面的な造形表現>」の専任教員等の配置を「准教授1」「兼任・兼任0」から「准教授0」「兼任・兼任1」に変更。
- ・ 計画時の兼任・兼任教員が令和4年4月に専任教員となったことによる専任教員及び兼任・兼任教員の配置の変更
 - 「授業力基礎演習」の専任教員等の配置を「教授0」「兼任・兼任1」から「教授1」「兼任・兼任0」に変更。
- ・ 令和4年4月の専任教員の昇任及び設置計画からの専任教員の変更及び担当教員の変更による、専任教員及び兼任・兼任教員の配置の変更
 - ①「課題探求実習」の専任教員等の配置を「教授13」「准教授13」から「教授14」「准教授11」に変更。
 - ②「課題解決実習A」の専任教員等の配置を「教授12」「准教授12」から「教授13」「准教授10」に変更。
 - ③「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授44」「准教授36」から「教授51」「准教授31」に変更。

- (注)・ 2(1)―① 授業科目目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	133 科目	0 科目	136 科目	3 科目 [0]	133 科目 [0]	0 科目 [0]	136 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{136} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	0 m ²	87,896 m ²	0 m ²	87,896 m ²				
	運動場用地	0 m ²	26,537 m ²	0 m ²	26,537 m ²				
	小 計	0 m ²	114,433 m ²	0 m ²	114,433 m ²				
	そ の 他	0 m ²	1,617,596 m ²	0 m ²	1,617,596 m ²				
	合 計	0 m ²	1,732,029 m ²	0 m ²	1,732,029 m ²				
(2) 校 舎	専 用		共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	0 m ²		27,066 m ²	0 m ²	27,066 m ²				
	(0 m ²)		(27,066 m ²)	(0 m ²)	(27,066 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	28室	28室	38室	6室 (補助職員 3人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	教育学研究科 教職開発専攻			86 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 教育研究環境の充実化 による更新(4)	
	教育学研究科 教職開発専攻	357,087 [48,890] (349,057 [47,578]) (350,531 [48,174]) (349,057 [47,578])	8,103 [3,175] (8,135 [3,154]) (8,103 [3,175]) (8,135 [3,154])	2,281 [2,281] (2,259 [2,259]) (2,281 [2,281]) (2,259 [2,259])	883 894 (883) (894)	412 448 (412) (448)	0 (0)		
	計	357,087 [48,890] (349,057 [47,578]) (350,531 [48,174]) (349,057 [47,578])	8,103 [3,175] (8,135 [3,154]) (8,103 [3,175]) (8,135 [3,154])	2,281 [2,281] (2,259 [2,259]) (2,281 [2,281]) (2,259 [2,259])	883 894 (883) (894)	412 448 (412) (448)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	3,388 m ²		373		356,222冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					大学全体	
	1,028 m ²		屋 外 プ ー ル テ ニ ス コ ー ト						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	奈良教育大学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
教育学部	4	255	-	1,020	-	1.04	1.05	-	-	-	
学校教育教員養成課程	4	255	-	1,020	学士(教育学)	1.04	1.05	-	平成11	奈良県奈良市高畑町	
総合教育課程	4	-	-	-	学士(教育)	-	-	-	平成11	同上	※平成24年度学生募集停止
大学全体	-	255	-	1,020	-	-	-	-	-	-	

大学 の 名 称	奈良教育大学大学院						学生募集停止学科数	4	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
教育学研究科	2	70	-	140	-	0.88	0.88	-	-	-	
伝統文化教育・国際理解教育専攻(修士課程)	2	20	-	40	修士(教育学)	0.95	0.95	-	令和4	奈良県奈良市高畑町	
人間発達専攻(修士課程)	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	平成28	同上	※令和4年度学生募集停止
教科教育専攻(修士課程)	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	平成16	同上	※令和4年度学生募集停止
学校教育専攻(修士課程)	2	-	-	-	修士(教育学)	-	-	-	昭和58	同上	※平成28年度学生募集停止
教職開発専攻(専門職学位課程)	2	50	-	100	教職修士(専門職)	0.86	0.86	-	令和4	同上	
教職開発専攻(専門職学位課程)	2	-	-	-	教職修士(専門職)	-	-	-	平成20	同上	※令和4年度学生募集停止
大学院全体	-	70	-	140	-	0.88	0.88	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学研究科 教育学研究科教職開発専攻（専門職学位課程）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	粕谷 貴志 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		生徒指導と子どもの心※ 課題探求実習 課題解決実習 A 課題研究 I 課題研究 II
専	教授	河崎 智恵 ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		生徒指導と子どもの心※ 教師の発達とキャリア教育 課題探求実習 課題解決実習 A 課題研究 I 課題研究 II
専	教授	中井 隆司 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		課題探求実習 課題解決実習 A 教師の成長と授業研究 教科の原理と授業づくり(保健 体育)※ 課題研究 I 課題研究 II
専	准教授	北川 剛司 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)※
		指導と評価の一体化 課題探求実習 課題解決実習 A へき地学校実習 課題研究 I 課題研究 II

【令和4年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	粕谷 貴志 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		生徒指導と子どもの心※ 課題探求実習 課題解決実習 A 課題研究 I 課題研究 II
専	教授	河崎 智恵 ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		生徒指導と子どもの心※ 教師の発達とキャリア教育 課題探求実習 課題解決実習 A 課題研究 I 課題研究 II
専	教授	中井 隆司 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		課題探求実習 課題解決実習 A 教師の成長と授業研究 教科の原理と授業づくり(保健 体育)※ 課題研究 I 課題研究 II
専	准教授	北川 剛司 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)※
		指導と評価の一体化 課題探求実習 課題解決実習 A へき地学校実習 課題研究 I 課題研究 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	赤沢 早人 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		カリキュラム・マネジメント実践論※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	石井 俊行 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(理科) 教科内容と教材開発(理科:物理分野)※ 教科内容と教材開発(理科:化学分野)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	石田 正樹 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科の原理と授業づくり(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:生物分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	板橋 孝幸 ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		ESDと郷土教育・総合学習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	市来 百合子 ＜令和4年4月＞ 博士(人間文化学)
		生徒指導と子どもの心※ 学校臨床の理論と実践 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	赤沢 早人 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		カリキュラム・マネジメント実践論※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	石井 俊行 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(理科) 教科内容と教材開発(理科:物理分野)※ 教科内容と教材開発(理科:化学分野)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	石田 正樹 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科の原理と授業づくり(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:生物分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	板橋 孝幸 ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		ESDと郷土教育・総合学習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	市来 百合子 ＜令和4年4月＞ 博士(人間文化学)
		生徒指導と子どもの心※ 学校臨床の理論と実践 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	伊藤 剛和 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		遠隔教育実践演習 学校教育の情報化特論 体系的なプログラミング教育 授業支援ツールを活用した授業設計 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	伊藤 直治 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(算数・数学) ※ 教科内容と教材開発(コンピュータ・応用数学)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	宇田 秀士 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(図画工作・美術)※ 教科内容と教材開発<絵画分野・絵に表す-平面的な造形表現>※ 教科内容と教材開発<工芸分野・デザイン分野・工作に表す-用途のある造形表現>※ 教科内容と教材開発<彫刻分野・立体に表す・造形遊び-立体的な造形表現>※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	笠次 良爾 ＜令和4年4月＞ 学士(医学)
		ICTを含む授業実践(保健体育)※ 教科内容と教材開発(運動領域)※ 教科内容と教材開発(保健領域)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	伊藤 剛和 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		遠隔教育実践演習 学校教育の情報化特論 体系的なプログラミング教育 授業支援ツールを活用した授業設計 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	伊藤 直治 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(コンピュータ・応用数学)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	宇田 秀士 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(図画工作・美術)※ 教科内容と教材開発<絵画分野・絵に表す-平面的な造形表現>※ 教科内容と教材開発<工芸分野・デザイン分野・工作に表す-用途のある造形表現>※ 教科内容と教材開発<彫刻分野・立体に表す・造形遊び-立体的な造形表現>※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	笠次 良爾 ＜令和4年4月＞ 学士(医学)
		ICTを含む授業実践(保健体育)※ 教科内容と教材開発(運動領域)※ 教科内容と教材開発(保健領域)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	梶原 篤 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		教科の原理と授業づくり(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:化学分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	片岡 弘勝 ＜令和4年4月＞ 教育学修士※
		地域とつくる学校 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	門田 守 ＜令和4年4月＞ 文学修士
		教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす) 教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす) 教科内容と教材開発(英文法指導)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	川崎 謙一郎 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(代数)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	越野 和之 ＜令和4年4月＞ 文学修士※
		特別支援教育の教育課程論※ 特別支援教育と学校・学級経営 課題探求実習 課題解決実習B(特別支援教育) 重度障害児の理解と支援 特別支援教育アセスメント事例研究※ 特別支援教育コーディネーター論※ 特別支援教育のシステム論 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	梶原 篤 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		教科の原理と授業づくり(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:化学分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	片岡 弘勝 ＜令和4年4月＞ 教育学修士※
		地域とつくる学校 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	門田 守 ＜令和4年4月＞ 文学修士
		教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす) 教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす) 教科内容と教材開発(英文法指導)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	川崎 謙一郎 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(代数)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	越野 和之 ＜令和4年4月＞ 文学修士※
		特別支援教育の教育課程論※ 特別支援教育と学校・学級経営 課題探求実習 課題解決実習B(特別支援教育) 重度障害児の理解と支援 特別支援教育アセスメント事例研究※ 特別支援教育コーディネーター論※ 特別支援教育のシステム論 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	今 正秀 ＜令和4年4月＞ 文学修士※
		教科の原理と授業づくり(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅰ)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅱ)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	近藤 裕 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(算数・数学)※ ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(解析)※ 教科内容と教材開発(代数)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	佐藤 臨太郎 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(英語) 教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす)※ 教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす)※ 教科内容と教材開発(英文法指導)※ ICTを含む授業実践(小学校外国語・英語)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	今 正秀 ＜令和4年4月＞ 文学修士※
		教科の原理と授業づくり(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅰ)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅱ)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	近藤 裕 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(算数・数学)※ ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(解析)※ 教科内容と教材開発(代数)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	佐藤 臨太郎 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(英語) 教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす)※ 教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす)※ 教科内容と教材開発(英文法指導)※ ICTを含む授業実践(小学校外国語・英語)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	杉山 薫 ＜令和4年4月＞ 博士(農学)
		教科の原理と授業づくり(家庭科)※ ICTを含む授業実践(家庭科)※ 教科内容と教材開発(生活科学基礎実験領域)※ 教科内容と教材開発(健康生活領域)※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	全 有耳 ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		発達障害児の理解と支援※ 特別支援教育の生理・病理 特別支援教育アセスメント事例研究※ 特別支援教育コーディネーター論※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	高橋 豪仁 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)※
		ICTを含む授業実践(保健体育)※ 教科内容と教材開発(体育理論領域)※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	竹内 晋平 ＜令和4年4月＞ 博士(美術)
		教科の原理と授業づくり(図画工作・美術)※ ICTを含む授業実践(図画工作・美術)※ 課題研究 I 課題研究 II ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	杉山 薫 ＜令和4年4月＞ 博士(農学)
		教科の原理と授業づくり(家庭科)※ ICTを含む授業実践(家庭科)※ 教科内容と教材開発(生活科学基礎実験領域)※ 教科内容と教材開発(健康生活領域)※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	全 有耳 ＜令和4年4月＞ 博士(医学)
		発達障害児の理解と支援※ 特別支援教育の生理・病理 特別支援教育アセスメント事例研究※ 特別支援教育コーディネーター論※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	高橋 豪仁 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)※
		ICTを含む授業実践(保健体育)※ 教科内容と教材開発(体育理論領域)※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	竹内 晋平 ＜令和4年4月＞ 博士(美術)
		教科の原理と授業づくり(図画工作・美術)※ ICTを含む授業実践(図画工作・美術)※ 課題研究 I 課題研究 II ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	立松 麻衣子 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科の原理と授業づくり(家庭科)※ ICTを含む授業実践(家庭科)※ 教科内容と教材開発(生活デザイン領域)※ 教科内容と教材開発(健康生活領域)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	棚橋 尚子 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(国語)※ ICTを含む授業実践(国語) 教科内容と教材開発(古典文学)Ⅰ※ 教科内容と教材開発(古典文学)Ⅱ※ 教科内容と教材開発(近代文学)Ⅰ※ 教科内容と教材開発(近代文学)Ⅱ※ 教科内容と教材開発(音声言語)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	辻野 亮 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		教科内容と教材開発(理科:生物分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	常田 琢 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:物理分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	立松 麻衣子 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科の原理と授業づくり(家庭科)※ ICTを含む授業実践(家庭科)※ 教科内容と教材開発(生活デザイン領域)※ 教科内容と教材開発(健康生活領域)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	棚橋 尚子 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(国語)※ ICTを含む授業実践(国語) 教科内容と教材開発(古典文学)Ⅰ※ 教科内容と教材開発(古典文学)Ⅱ※ 教科内容と教材開発(近代文学)Ⅰ※ 教科内容と教材開発(近代文学)Ⅱ※ 教科内容と教材開発(音声言語)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	辻野 亮 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		教科内容と教材開発(理科:生物分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	常田 琢 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:物理分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	出口 拓彦 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		学級集団と心理学 学級集団のアクションリサーチ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	中村 元彦 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		教科の原理と授業づくり(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:物理分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	西田 慎 ＜令和4年4月＞ Dr. phil. 哲学博士(政治学) (ハンブルグ大学) ドイツ
		教科の原理と授業づくり(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅰ)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅱ)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	根田 克彦 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅰ)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅱ)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	日高 佳紀 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		教科の原理と授業づくり(国語)※ ICTを含む授業実践(国語)※ 教科内容と教材開発(近代文学)Ⅰ 教科内容と教材開発(近代文学)Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	出口 拓彦 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		学級集団と心理学 学級集団のアクションリサーチ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	中村 元彦 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		教科の原理と授業づくり(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:物理分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	西田 慎 ＜令和4年4月＞ Dr. phil. 哲学博士(政治学) (ハンブルグ大学) ドイツ
		教科の原理と授業づくり(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅰ)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅱ)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	根田 克彦 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅰ)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史Ⅱ)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	日高 佳紀 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		教科の原理と授業づくり(国語)※ ICTを含む授業実践(国語)※ 教科内容と教材開発(近代文学)Ⅰ 教科内容と教材開発(近代文学)Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	廣瀬 聡弥 ＜令和4年4月＞ 博士(人間科学)
		課題探求実習 課題解決実習A 幼小連携・接続の理論と実践の展開 幼年教育の理論と実践 魅力ある幼稚園・保育所・こども園等の運営 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	藤井 智康 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		教科の原理と授業づくり(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:地学分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	古田 壮宏 ＜令和4年4月＞ 博士(経営学)
		遠隔教育実践演習 学校教育の情報化特論 体系的なプログラミング教育 授業支援ツールを活用した授業設計 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	藪 哲郎 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		教科の原理と授業づくり(技術)※ ICTを含む授業実践(技術)※ 教科内容と教材開発(技術:電気情報分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	山崎 祥子 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:化学分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	廣瀬 聡弥 ＜令和4年4月＞ 博士(人間科学)
		課題探求実習 課題解決実習A 幼小連携・接続の理論と実践の展開 幼年教育の理論と実践 魅力ある幼稚園・保育所・こども園等の運営 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	藤井 智康 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		教科の原理と授業づくり(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:地学分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	古田 壮宏 ＜令和4年4月＞ 博士(経営学)
		遠隔教育実践演習 学校教育の情報化特論 体系的なプログラミング教育 授業支援ツールを活用した授業設計 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	藪 哲郎 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		教科の原理と授業づくり(技術)※ ICTを含む授業実践(技術)※ 教科内容と教材開発(技術:電気情報分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	山崎 祥子 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:化学分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	横山 真貴子 ＜令和4年4月＞ 博士(人文科学)
		保育・幼児教育の内容論と実践の展開 幼小連携・接続の理論と実践の展開 魅力ある幼稚園・保育所・こども園等の運営 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	劉 麟玉 ＜令和4年4月＞ 博士(人文科学)
		課題探求実習 課題解決実習 A 教科の原理と授業づくり(音楽)※ ICTを含む授業実践(音楽)※ 教科内容と教材開発(鑑賞・創作)※ 教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ)※ 教科内容と教材開発(表現領域・声楽)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	和田 穰隆 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:地学分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	渡邊 伸一 ＜令和4年4月＞ 社会学修士
		教科の原理と授業づくり(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・公民Ⅰ)※ 教科内容と教材開発(社会・公民Ⅱ)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	横山 真貴子 ＜令和4年4月＞ 博士(人文科学)
		保育・幼児教育の内容論と実践の展開 幼小連携・接続の理論と実践の展開 魅力ある幼稚園・保育所・こども園等の運営
専他	教授	劉 麟玉 ＜令和4年4月＞ 博士(人文科学)
		課題探求実習 課題解決実習 A 教科の原理と授業づくり(音楽)※ ICTを含む授業実践(音楽)※ 教科内容と教材開発(鑑賞・創作)※ 教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ)※ 教科内容と教材開発(表現領域・声楽)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	和田 穰隆 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:地学分野) 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	渡邊 伸一 ＜令和4年4月＞ 社会学修士
		教科の原理と授業づくり(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・公民Ⅰ)※ 教科内容と教材開発(社会・公民Ⅱ)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	アムルト・トマス マーティン ＜令和4年4月＞ Ph. D. 博士(言語学) (マッコーリー大学) オーストラリア
		教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす)※ 教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす)※ 教科内容と教材開発(英文法指導)※ Organizing your classroom talk and assignments effectively 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	有馬 義貴 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科の原理と授業づくり(国語)※ ICTを含む授業実践(国語)※ 教科内容と教材開発(古典文学) I※ 教科内容と教材開発(古典文学) II 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	石井 僚 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		生徒指導と子どもの心※ 教育と臨床 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	井上 邦子 ＜令和4年4月＞ 博士(体育科学)
		ICTを含む授業実践(保健体育)※ 教科内容と教材開発(体育理論領域)※ 課題研究 I 課題研究 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	アムルト・トマス マーティン ＜令和4年4月＞ Ph. D. 博士(言語学) (マッコーリー大学) オーストラリア
		教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす)※ 教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす)※ 教科内容と教材開発(英文法指導)※ Organizing your classroom talk and assignments effectively 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	有馬 義貴 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科の原理と授業づくり(国語)※ ICTを含む授業実践(国語)※ 教科内容と教材開発(古典文学) I※ 教科内容と教材開発(古典文学) II 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	石井 僚 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		生徒指導と子どもの心※ 教育と臨床 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	井上 邦子 ＜令和4年4月＞ 博士(体育科学)
		ICTを含む授業実践(保健体育)※ 教科内容と教材開発(体育理論領域)※ 課題研究 I 課題研究 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	太田 満 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(社会)※ ICTを含む授業実践(社会)※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	大西 賢治 ＜令和4年4月＞ 博士(人間科学)
		幼年心理の理論と保育 幼児理解を深めるための実践研究 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	奥田 喜道 ＜令和4年4月＞ 修士(法学)※
		ICTを含む授業実践(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・公民I)※ 教科内容と教材開発(社会・公民II)※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	梶尾 悠史 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		教科の原理と授業づくり(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・公民I)※ 教科内容と教材開発(社会・公民II)※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	粕谷 圭佑 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		学級集団づくりの実践分析研究 課題研究I 課題研究II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	太田 満 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(社会)※ ICTを含む授業実践(社会)※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	大西 賢治 ＜令和4年4月＞ 博士(人間科学)
		幼年心理の理論と保育 幼児理解を深めるための実践研究 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	奥田 喜道 ＜令和4年4月＞ 修士(法学)※
		ICTを含む授業実践(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・公民I)※ 教科内容と教材開発(社会・公民II)※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	梶尾 悠史 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		教科の原理と授業づくり(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・公民I)※ 教科内容と教材開発(社会・公民II)※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	粕谷 圭佑 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		学級集団づくりの実践分析研究 課題研究I 課題研究II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	狩野 宏明 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術学)
		ICTを含む授業実践(図画工作・美術)※ 教科内容と教材開発<絵画分野・絵に表す-平面的な造形表現>※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	河本 大地 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		ESDと地域創生 SDGsフィールドワーク 教科内容と教材開発(社会・地理歴史 I)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史 II)※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	小長谷 達郎 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:生物分野) 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	世良 啓太 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		課題探求実習 課題解決実習 A 教科の原理と授業づくり(技術)※ ICTを含む授業実践(技術)※ 教科内容と教材開発(技術:電気情報分野)※ 教科内容と教材開発(技術:栽培分野)※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	高木 祐介 ＜令和4年4月＞ 博士(健康科学)
		ICTを含む授業実践(保健体育)※ 教科内容と教材開発(保健領域)※ 課題研究 I 課題研究 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	狩野 宏明 ＜令和4年4月＞ 博士(芸術学)
		ICTを含む授業実践(図画工作・美術)※ 教科内容と教材開発<絵画分野・絵に表す-平面的な造形表現>※
専他	准教授	河本 大地 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		ESDと地域創生 SDGsフィールドワーク 教科内容と教材開発(社会・地理歴史 I)※ 教科内容と教材開発(社会・地理歴史 II)※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	小長谷 達郎 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:生物分野) 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	世良 啓太 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		課題探求実習 課題解決実習 A 教科の原理と授業づくり(技術)※ ICTを含む授業実践(技術)※ 教科内容と教材開発(技術:電気情報分野)※ 教科内容と教材開発(技術:栽培分野)※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	高木 祐介 ＜令和4年4月＞ 博士(健康科学)
		ICTを含む授業実践(保健体育)※ 教科内容と教材開発(保健領域)※ 課題研究 I 課題研究 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	高橋 亮 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(解析)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	准教授	立 正伸 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		ICTを含む授業実践(保健体育)※ 教科内容と教材開発(運動領域)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	准教授	中川 愛 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		教科の原理と授業づくり(家庭科)※ ICTを含む授業実践(家庭科)※ 教科内容と教材開発(生活デザイン領域)※ 教科内容と教材開発(健康生活領域)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	准教授	中澤 静男 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		ESD-SDGsの理論と実践 ESDカリキュラムマネジメント 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	准教授	中山 留美子 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		発達理論と教育実践 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	高橋 亮 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(解析)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	准教授	立 正伸 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		ICTを含む授業実践(保健体育)※ 教科内容と教材開発(運動領域)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	准教授	中川 愛 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		教科の原理と授業づくり(家庭科)※ ICTを含む授業実践(家庭科)※ 教科内容と教材開発(生活デザイン領域)※ 教科内容と教材開発(健康生活領域)※ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	教授	中澤 静男 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		ESD-SDGsの理論と実践 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
専他	准教授	中山 留美子 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		発達理論と教育実践 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	信川 正順 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:地学分野) 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	原山 健一 ＜令和4年4月＞ 学士(芸術)
		教科内容と教材開発＜工芸分野・デザイン分野・工作に表す-用途のある造形表現＞※ 教科内容と教材開発＜彫刻分野・立体に表す・造形遊び-立体的な造形表現＞※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	舟橋 友香 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)※
		教科の原理と授業づくり(算数・数学)※ ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(確率・統計)※ 教科内容と教材開発(コンピュータ・応用数学)※ 教科内容と教材開発(幾何)※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	北條 美香代 ＜令和4年4月＞ 博士(音楽)
		教科の原理と授業づくり(音楽)※ ICTを含む授業実践(音楽)※ 教科内容と教材開発(鑑賞・創作) 教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ)※ 教科内容と教材開発(表現領域・声楽)※ 課題研究 I 課題研究 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	信川 正順 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:地学分野) 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	原山 健一 ＜令和4年4月＞ 学士(芸術)
		教科内容と教材開発＜工芸分野・デザイン分野・工作に表す-用途のある造形表現＞※ 教科内容と教材開発＜彫刻分野・立体に表す・造形遊び-立体的な造形表現＞※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	准教授	舟橋 友香 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)※
		教科の原理と授業づくり(算数・数学)※ ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(確率・統計)※ 教科内容と教材開発(コンピュータ・応用数学)※ 教科内容と教材開発(幾何)※ 課題研究 I 課題研究 II
専他	教授	北條 美香代 ＜令和4年4月＞ 博士(音楽)
		教科の原理と授業づくり(音楽)※ ICTを含む授業実践(音楽)※ 教科内容と教材開発(鑑賞・創作) 教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ)※ 教科内容と教材開発(表現領域・声楽)※ 課題研究 I 課題研究 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	堀田 千絵 <令和4年4月> 博士(心理学) 特別支援教育の教育課程論※ ユニバーサルな授業デザイン 課題探求実習 課題解決実習B(特別支援教育) へき地学校実習 特別支援教育アセスメント事例研究※ 特別支援教育コーディネーター論※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	水野 亜歴 <令和4年4月> 修士(音楽) 教科の原理と授業づくり(音楽)※ ICTを含む授業実践(音楽)※ 教科内容と教材開発(鑑賞・創作)※ 教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ)※ 教科内容と教材開発(表現領域・声楽) 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	箕作 和彦 <令和4年4月> 博士(応用生命科学) 教科の原理と授業づくり(技術)※ ICTを含む授業実践(技術)※ 教科内容と教材開発(技術:栽培分野) 課題研究I 課題研究II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専他	教授	萱 のり子 <令和4年4月> 博士(文学)※ 教科の原理と授業づくり(書道)※ 教科内容と教材開発(漢字書法)※ 教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)※ 教科内容と教材開発(書道史)※ ICTを含む授業実践(書道)※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	堀田 千絵 <令和4年4月> 博士(心理学) 特別支援教育の教育課程論※ ユニバーサルな授業デザイン 課題探求実習 課題解決実習B(特別支援教育) へき地学校実習 特別支援教育アセスメント事例研究※ 特別支援教育コーディネーター論※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	水野 亜歴 <令和4年4月> 修士(音楽) 教科の原理と授業づくり(音楽)※ ICTを含む授業実践(音楽)※ 教科内容と教材開発(鑑賞・創作)※ 教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ)※ 教科内容と教材開発(表現領域・声楽) 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	箕作 和彦 <令和4年4月> 博士(応用生命科学) 教科の原理と授業づくり(技術)※ ICTを含む授業実践(技術)※ 教科内容と教材開発(技術:栽培分野) 課題研究I 課題研究II

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	宮尾 夏姫 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(保健体育)※ ICTを含む授業実践(保健体育)※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	村上 睦美 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(家庭科)※ ICTを含む授業実践(家庭科)※ 教科内容と教材開発(生活デザイン領域)※ 教科内容と教材開発(生活科学基礎実験領域)※ 教科内容と教材開発(健康生活領域)※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	米倉 陽子 ＜令和4年4月＞ 修士(文学)※
		教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす)※ 教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす)※ 教科内容と教材開発(英文法指導) 課題研究I 課題研究II

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	宮尾 夏姫 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(保健体育)※ ICTを含む授業実践(保健体育)※ 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	村上 睦美 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		課題探求実習 課題解決実習A 教科の原理と授業づくり(家庭科)※ ICTを含む授業実践(家庭科)※ 教科内容と教材開発(生活デザイン領域)※ 教科内容と教材開発(生活科学基礎実験領域)※ 教科内容と教材開発(健康生活領域)※ 課題研究I 課題研究II
専他	教授	米倉 陽子 ＜令和4年4月＞ 修士(文学)※
		教科内容と教材開発(テキストをスピーキングに活かす)※ 教科内容と教材開発(テキストをライティングに活かす)※ 教科内容と教材開発(英文法指導) 課題研究I 課題研究II
専他	准教授	鈴木 啓資 ＜令和4年4月＞ 博士(音楽)
		教科の原理と授業づくり(音楽)※ ICTを含む授業実践(音楽)※ 教科内容と教材開発(鑑賞・創作)※ 教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ) 教科内容と教材開発(表現領域・声楽)※ 課題研究I 課題研究II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	講師	富井 奈菜実 ＜令和4年4月＞ 修士(人間科学) 発達障害児の理解と支援※ 課題探求実習 課題解決実習B(特別支援教育) 特別支援教育アセスメント事例研究※ 特別支援教育コーディネーター論※ 自閉症児の理解と支援 課題研究I 課題研究II
実専	教授	前田 康二 ＜令和4年4月＞ 学士(文学) 課題探求実習 課題解決実習A へき地学校実習 教科の原理と授業づくり(小学校外国語) ICTを含む授業実践(小学校外国語・英語) 教科内容と教材開発(小学校外国語) 課題研究I 課題研究II
実専	教授	山本 敏久 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学) 教育課程の開発と改善 課題探求実習 課題解決実習A 課題解決実習B(特別支援教育) へき地学校実習 カリキュラム・マネジメント実践論※ 課題研究I 課題研究II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	及川 幸彦 ＜令和4年4月＞ 博士(地球環境学)※ ESDカリキュラムマネジメント ESDと総合的な学習の時間特講 課題研究I 課題研究II
専他	講師	富井 奈菜実 ＜令和4年4月＞ 修士(人間科学) 発達障害児の理解と支援※ 課題探求実習 課題解決実習B(特別支援教育) 特別支援教育アセスメント事例研究※ 特別支援教育コーディネーター論※ 自閉症児の理解と支援 課題研究I 課題研究II
実専	教授	前田 康二 ＜令和4年4月＞ 学士(文学) 課題探求実習 課題解決実習A へき地学校実習 教科の原理と授業づくり(小学校外国語) ICTを含む授業実践(小学校外国語・英語) 教科内容と教材開発(小学校外国語) 課題研究I 課題研究II
実専	教授	山本 敏久 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学) 教育課程の開発と改善 課題探求実習 課題解決実習A 課題解決実習B(特別支援教育) へき地学校実習 カリキュラム・マネジメント実践論※ 課題研究I 課題研究II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	小崎 誠二 ＜令和4年4月＞ 教育学士 学校組織とアカウンタビリティ 課題探求実習 課題解決実習 A へき地学校実習 遠隔教育実践演習 デジタル教材作成演習 学習の基盤力向上のためのICT活用 演習 授業力応用演習 課題研究 I 課題研究 II
実専他	准教授	竹村 謙司 ＜令和4年4月＞ 理学士 課題探求実習 課題解決実習 A 遠隔教育実践演習 教育のためのデータサイエンス 課題研究 I 課題研究 II
実み	准教授	大西 浩明 ＜令和4年4月＞ 文学士 課題探求実習 課題解決実習 A ESD-SDGsの理論と実践 ESDと総合的な学習の時間特講
実み	准教授	大橋 輝雄 ＜令和4年4月＞ 教育学士 課題探求実習 課題解決実習 A 授業力基礎演習 課題研究 I 課題研究 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	中川 貴明 ＜令和4年4月＞ 教育学士 課題研究 I 課題研究 II
実専	准教授	小崎 誠二 ＜令和4年4月＞ 教育学士 学校組織とアカウンタビリティ 課題探求実習 課題解決実習 A へき地学校実習 遠隔教育実践演習 デジタル教材作成演習 学習の基盤力向上のためのICT活 用演習 授業力応用演習 課題研究 I 課題研究 II
実専他	教授	竹村 謙司 ＜令和4年4月＞ 理学士 課題探求実習 課題解決実習 A 遠隔教育実践演習 教育のためのデータサイエンス 課題研究 I 課題研究 II
実み	准教授	大西 浩明 ＜令和4年4月＞ 文学士 課題探求実習 課題解決実習 A ESD-SDGsの理論と実践 ESDと総合的な学習の時間特講
実み	准教授	大橋 輝雄 ＜令和4年4月＞ 教育学士 課題探求実習 課題解決実習 A 授業力基礎演習 課題研究 I 課題研究 II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	准教授	柿本 篤子 ＜令和4年4月＞ 家政学士
		授業力基礎演習 学級・学校づくりと特別活動
実み	准教授	阪部 清 ＜令和4年4月＞ 商学士
		課題探求実習 課題解決実習A へき地学校実習 課題研究I 課題研究II ESDとしての教育実践(理数・生活 科学領域)※
実み	准教授	田中 幸臣 ＜令和4年4月＞ 農学士
		授業力基礎演習 学級経営実践論
実み	准教授	廣岡 敏美 ＜令和4年4月＞ 文学士
		課題探求実習 課題解決実習A 課題研究I 課題研究II ESDとしての教育実践(言語・社会 科学領域)※
実み	准教授	米谷 幸 ＜令和4年4月＞ 芸術学士
		学級経営の基礎・基本 課題探求実習 課題解決実習A へき地学校実習 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	橋本 昭典 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		教科内容と教材開発(古典文学)I ※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	准教授	柿本 篤子 ＜令和4年4月＞ 家政学士
		授業力基礎演習 学級・学校づくりと特別活動
実み	准教授	阪部 清 ＜令和4年4月＞ 商学士
		課題探求実習 課題解決実習A へき地学校実習 課題研究I 課題研究II ESDとしての教育実践(理数・生 活科学領域)※
実み	准教授	田中 幸臣 ＜令和4年4月＞ 農学士
		授業力基礎演習 学級経営実践論
実み	准教授	米谷 幸 ＜令和4年4月＞ 芸術学士
		学級経営の基礎・基本 課題探求実習 課題解決実習A へき地学校実習 課題研究I 課題研究II
兼任	教授	橋本 昭典 ＜令和4年4月＞ 博士(文学)
		教科内容と教材開発(古典文 学)I※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	前田 広幸 ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		教科内容と教材開発(音声言語)※
兼任	教授	吉村 雅仁 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		教科内容と教材開発(小学校外国語)
兼任	教授	高木 祥司 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(確率・統計)※
兼任	教授	豊田 宗児 ＜令和4年4月＞ 教育学士
		教科の原理と授業づくり(書道)※ ICTを含む授業実践(書道)※ 教科内容と教材開発(漢字書法)※ 教科内容と教材開発(書道史)※ 教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)※
兼任	教授	松山 豊樹 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:物理分野)
兼任	教授	森本 弘一 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		ICTを含む授業実践(理科) 教科内容と教材開発(理科:生物分野)※ 教科内容と教材開発(理科:地学分野)※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	前田 広幸 ＜令和4年4月＞ 修士(文学)
		教科内容と教材開発(音声言語)※
兼任	教授	吉村 雅仁 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		教科内容と教材開発(小学校外国語)
兼任	教授	高木 祥司 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		ICTを含む授業実践(算数・数学)※ 教科内容と教材開発(確率・統計)※
兼任	教授	豊田 宗児 ＜令和4年4月＞ 教育学士
		教科の原理と授業づくり(書道)※ ICTを含む授業実践(書道)※ 教科内容と教材開発(漢字書法)※ 教科内容と教材開発(書道史)※ 教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)※
兼任	教授	松山 豊樹 ＜令和4年4月＞ 理学博士
		ICTを含む授業実践(理科)※ 教科内容と教材開発(理科:物理分野)
兼任	教授	森本 弘一 ＜令和4年4月＞ 博士(学校教育学)
		ICTを含む授業実践(理科) 教科内容と教材開発(理科:生物分野)※ 教科内容と教材開発(理科:地学分野)※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	北山 聡佳 ＜令和4年4月＞ 修士(人間・環境学)※
		教科の原理と授業づくり(書道)※ 教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)※
兼担	講師(理事)	宮下 俊也 ＜令和4年4月＞ 芸術学修士 教育学修士
		STEAM教育演習※ ESDとしての教育実践(芸術・保健 体育領域)※
兼担	講師(理事)	浅田 重義 ＜令和4年4月＞ 農学修士
		授業力基礎演習
兼担	講師	中村 基一 ＜令和4年4月＞ 学士
		ESDとしての教育実践(言語・社会 科学領域)※
兼担	講師	入澤 佳菜 ＜令和4年4月＞ 学士(教育学)
		ESDとしての教育実践(言語・社会 科学領域)※
兼担	講師	奥原 牧 ＜令和4年4月＞ 学士(教育学)
		ESDとしての教育実践(言語・社会 科学領域)※
兼担	講師	若森 達哉 ＜令和4年4月＞ 学士(教育学)
		ESDとしての教育実践(言語・社会 科学領域)※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	北山 聡佳 ＜令和4年4月＞ 修士(人間・環境学)※
		教科の原理と授業づくり(書道)※ 教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)※
兼担	講師(理事・学長・研究科長)	宮下 俊也 ＜令和4年4月＞ 芸術学修士 教育学修士
		STEAM教育演習※ ESDとしての教育実践(芸術・保健 体育領域)※
実み	教授	浅田 重義 ＜令和4年4月＞ 農学修士
		授業力基礎演習 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ
兼担	講師	中村 基一 ＜令和4年4月＞ 学士
		ESDとしての教育実践(言語・社会 科学領域)※
兼担	講師	入澤 佳菜 ＜令和4年4月＞ 学士(教育学)
		ESDとしての教育実践(言語・社会 科学領域)※
兼担	講師	奥原 牧 ＜令和4年4月＞ 学士(教育学)
		ESDとしての教育実践(言語・社会 科学領域)※
兼担	講師	若森 達哉 ＜令和4年4月＞ 学士(教育学)
		ESDとしての教育実践(言語・社会 科学領域)※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	講師	市橋 由彬 ＜令和4年4月＞ 学士(教養)
		ESDとしての教育実践(言語・社会科学領域)※
兼担	講師	佐竹 靖 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		ESDとしての教育実践(理数・生活科学領域)※
兼担	講師	葉山 泰三 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		ESDとしての教育実践(理数・生活科学領域)※
兼担	講師	中嶋 たや ＜令和4年4月＞ 学士(教育)
		ESDとしての教育実践(理数・生活科学領域)※
兼担	講師	挽地 夕姫 ＜令和4年4月＞ 学士(音楽)
		ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)※
兼担	講師	長友 紀子 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)※
兼担	講師	井上 寛崇 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)※
兼担	講師	佐藤 朗 ＜令和4年4月＞ 学士(体育学)
		ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	講師	市橋 由彬 ＜令和4年4月＞ 学士(教養)
		ESDとしての教育実践(言語・社会科学領域)※
兼担	講師	佐竹 靖 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		ESDとしての教育実践(理数・生活科学領域)※
兼担	講師	葉山 泰三 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		ESDとしての教育実践(理数・生活科学領域)※
兼担	講師	中嶋 たや ＜令和4年4月＞ 学士(教育)
		ESDとしての教育実践(理数・生活科学領域)※
兼担	講師	長友 紀子 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)※
兼担	講師	井上 寛崇 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)※
兼担	講師	佐藤 朗 ＜令和4年4月＞ 学士(体育学)
		ESDとしての教育実践(芸術・保健体育領域)※

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	生田 周二 ＜令和4年4月＞ 教育学修士※ 教育支援と子どもの権利 子どもの権利を踏まえた教育支援の 実践
兼任	講師	森 伸宏 ＜令和4年4月＞ 経済学修士※ ICTを含む授業実践(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・公民 I)※ 教科内容と教材開発(社会・公民 II)※
兼任	講師	中西 陽 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学) 特別支援教育アセスメント事例研究 ※ 特別支援教育コーディネーター論※ 特別支援教育の心理学
兼任	講師	岩本 華子 ＜令和4年4月＞ 博士(社会福祉学) 子ども家庭福祉の理論と実践 子育て支援の理論と実践
兼任	講師	竹村 景生 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学) ESDとしての教育実践(理数・生活 科学領域)※
兼任	講師	中澤 哲也 ＜令和4年4月＞ 教職修士(専門職) ESDとしての教育実践(理数・生活 科学領域)※

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	加藤 久雄 ＜令和4年4月＞ 文学修士 ESDとしての教育実践(言語・ 社会科学領域)※
兼任	講師	生田 周二 ＜令和4年4月＞ 教育学修士※ 教育支援と子どもの権利 子どもの権利を踏まえた教育支 援の実践
兼任	講師	森 伸宏 ＜令和4年4月＞ 経済学修士※ ICTを含む授業実践(社会)※ 教科内容と教材開発(社会・公民 I)※ 教科内容と教材開発(社会・公民 II)※
兼任	講師	中西 陽 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学) 特別支援教育アセスメント事例 研究※ 特別支援教育コーディネーター 論※ 特別支援教育の心理学
兼任	講師	岩本 華子 ＜令和4年4月＞ 博士(社会福祉学) 子ども家庭福祉の理論と実践 子育て支援の理論と実践
兼任	講師	竹村 景生 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学) ESDとしての教育実践(理数・生活 科学領域)※
兼任	講師	中澤 哲也 ＜令和4年4月＞ 教職修士(専門職) ESDとしての教育実践(理数・生活 科学領域)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	上村 尚平 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		STEAM教育演習※
兼任	講師	大背戸 豊 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		STEAM教育演習※
兼任	講師	才脇 直樹 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		STEAM教育演習※
兼任	講師	安在 絵美 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		STEAM教育演習※
兼任	講師	木林 有理子 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科内容と教材開発(生活デザイン領域)※ 教科内容と教材開発(生活科学基礎実験領域)※
兼任	講師	古賀 松香 ＜令和4年4月＞ 博士(子ども学)
		保育・幼児教育の質の確保と向上【隔年】
兼任	講師	佐川 早季子 ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		保育・幼児教育の質的研究【隔年】
兼任	講師	島 恒生 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		道徳教育の理論と実践

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	上村 尚平 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		STEAM教育演習※
兼任	講師	大背戸 豊 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		STEAM教育演習※
兼任	講師	才脇 直樹 ＜令和4年4月＞ 博士(工学)
		STEAM教育演習※
兼任	講師	安在 絵美 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		STEAM教育演習※
兼任	講師	古賀 松香 ＜令和4年4月＞ 博士(子ども学)
		保育・幼児教育の質の確保と向上【隔年】
兼任	講師	佐川 早季子 ＜令和4年4月＞ 博士(教育学)
		保育・幼児教育の質的研究【隔年】
兼任	講師	島 恒生 ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		道徳教育の理論と実践

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	清水 裕子 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科内容と教材開発(生活デザイン領域)※ 教科内容と教材開発(生活科学基礎実験領域)※
兼任	講師	谷川 雅夫 ＜令和4年4月＞ 学士(教育学)
		教科の原理と授業づくり(書道)※ ICTを含む授業実践(書道)※ 教科内容と教材開発(漢字書法)※ 教科内容と教材開発(書道史)※ 教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)※
兼任	講師	田山 育男 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		教科内容と教材開発(幾何)※
兼任	講師	中俣 尚己 ＜令和4年4月＞ 博士(言語文化学)
		教科内容と教材開発(語彙・文法)
兼任	講師	福光 佐今 ＜令和4年4月＞ 学士(教育学)
		教科の原理と授業づくり(書道)※ ICTを含む授業実践(書道)※ 教科内容と教材開発(漢字書法)※ 教科内容と教材開発(書道史)※ 教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)※
兼任	講師	藤岡 秀樹 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		学校教育と心理学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	清水 裕子 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科内容と教材開発(生活デザイン領域)※ 教科内容と教材開発(生活科学基礎実験領域)※
兼任	講師	田山 育男 ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		教科内容と教材開発(幾何)※
兼任	講師	中俣 尚己 ＜令和4年4月＞ 博士(言語文化学)
		教科内容と教材開発(語彙・文法)
兼任	講師	福光 佐今 ＜令和4年4月＞ 学士(教育学)
		教科内容と教材開発(書道史)※ 教科内容と教材開発(書道作品鑑賞)※
兼任	講師	藤岡 秀樹 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		学校教育と心理学

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	細川 憲次 ＜令和4年4月＞ 工学士
		インクルーシブ教育原論
兼任	講師	堀 麻佑子 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		子どもの「学び」と心理学
兼任	講師	前田 則子 ＜令和4年4月＞ 芸術学修士
		教科の原理と授業づくり(音楽)※ ICTを含む授業実践(音楽)※ 教科内容と教材開発(鑑賞・創作)※ 教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ) 教科内容と教材開発(表現領域・声楽)※
兼任	講師	松本 歩子 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科の原理と授業づくり(家庭科)※ ICTを含む授業実践(家庭科)※
兼任	講師	水野 治久 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		子どもの発達の理解と支援※
兼任	講師	山本 智子 ＜令和4年4月＞ 博士(社会科学)
		LD児・ADHD児の理解と支援
兼任	講師	四辻 伸吾 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		子どもの発達の理解と支援※

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	細川 憲次 ＜令和4年4月＞ 工学士
		インクルーシブ教育原論
兼任	講師	堀 麻佑子 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		子どもの「学び」と心理学
兼任	講師	前田 則子 ＜令和4年4月＞ 芸術学修士
		教科の原理と授業づくり(音楽)※ ICTを含む授業実践(音楽)※ 教科内容と教材開発(鑑賞・創作)※ 教科内容と教材開発(表現領域・ピアノ) 教科内容と教材開発(表現領域・声楽)※
兼任	講師	松本 歩子 ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		教科の原理と授業づくり(家庭科)※ ICTを含む授業実践(家庭科)※
兼任	講師	水野 治久 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		子どもの発達の理解と支援※
兼任	講師	山本 智子 ＜令和4年4月＞ 博士(社会科学)
		LD児・ADHD児の理解と支援
兼任	講師	四辻 伸吾 ＜令和4年4月＞ 博士(心理学)
		子どもの発達の理解と支援※

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	皐月 宏彰 ＜令和4年4月＞ 法学博士(専門職)
		学校危機管理論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	皐月 宏彰 ＜令和4年4月＞ 法学博士(専門職)
		学校危機管理論
兼任	講師	森川 与志夫 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		教科の原理と授業づくり(社会)※ ICTを含む授業実践(社会)※
兼任	講師	西川 秀智 ＜令和4年4月＞ 教育学修士
		教科の原理と授業づくり(社会)※

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

--

【令和4年度】

・令和4年3月辞職及び令和4年4月の非常勤講師就任により、横山真貴子、狩野宏明の区分・職名を「専他・教授」より「兼任・講師」へ変更するとともに、担当授業科目より「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」を削除。
・中澤静男、原山健一、北條（三谷）美香代、米倉陽子、竹村謙司が令和4年4月に准教授から教授へ昇任したため職名を「教授」へ変更。
・廣岡敏美について令和4年3月辞職のため担当教員より削除。
・挽地夕姫、木林有理子について未就任のため担当教員より削除。
・谷川雅夫、前田則子について令和4年3月退職のため担当教員より削除。
・令和4年4月、萱のり子、鈴木啓資、及川幸彦、中川貴明、加藤久雄、森川与志夫、西川秀智が就任したため担当教員へ追加。
・令和4年4月、宮下俊也の学長・研究科長就任により職名に「学長・研究科長」を追加。
・令和4年3月に非常勤理事退任及び令和4年4月の教授就任により、浅田重義の区分・職名を「兼任・講師（理事）」より「実み・教授」へ変更するとともに、担当授業科目に「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」を追加。
・授業担当教員の変更により、中澤静男、福光左今の担当授業を一部削除。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要教 授数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要実 務家教員数
26 名	12 名	11 名

(注) ・ 専門職大学院に関し必要な事項について定める件（平成十五年三月三十一日文科科学省告示第五十三号）及び
大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文科省告示第七十五号）により
算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況									
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')				
44	39	1	0	84	0	51	34	1	0	86	0				
(51)	(34)	(1)	(0)	(86)	(0)										
研究者教員数		実務家教員数		みなし専任教員数		講義のみ担当 の教員数		研究者教員数		実務家教員数		みなし専任教員数		講義のみ担当 の教員数	
73		11		7		0		74		12		7		0	
(74)		(12)		(7)		(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画									
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')				
51	34	1	0	86	0	50	34	1	0	86	0				
[+7]	[-5]	[0]	[0]	[+2]	[0]	[+7]	[-5]	[0]	[0]	[+2]	[0]				
研究者教員数		実務家教員数		みなし専任教員数		講義のみ担当 の教員数		研究者教員数		実務家教員数		みなし専任教員数		講義のみ担当 の教員数	
74		12		7		0		74		12		7		0	
[+1]		[+1]		[0]		[0]		[+1]		[+1]		[0]		[0]	

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、
教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、
「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「みなし専任教員数」には、「実務家教員数」に計上している実務家教員数のうち、みなし専任教員の教員数を計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 (特任教員 70)	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、
及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている
教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入
し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{86}{84} = \boxed{102.38} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{86} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	横山真貴子	R4.4	必修	課題研究 I	①	R4.3辞職のため(4)			
				必修	課題研究 II	①				
2	准教授	狩野宏明	R4.4	必修	課題研究 I	①	R4.3辞職のため(4)			
				必修	課題研究 II	①				
3	准教授	廣岡敏美	R4.4	必修	課題研究 I	①	R4.3辞職のため(4)			
				必修	課題研究 II	①				
				必修	課題探求実習	①				
				選択	課題解決実習A	①				
				選択	ESDとしての教育実践(言語・社会科学領域)	②				
合計(D)					後任補充状況の集計(E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
3	人	必修	7	科目	必修	7	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	1	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	8	科目	計	1	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計(F)					後任補充状況の集計(G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)					後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
3	人	必修	7	科目	必修	7	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	1	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	8	科目	計	1	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)\text{合計}(D)+(F)}{(2)-(2)\text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{84} = \boxed{3.57} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	#VALUE! 科目	必修	〇〇 科目	必修	〇〇 科目
		選択	#VALUE! 科目	選択	〇〇 科目	選択	〇〇 科目
		自由	#VALUE! 科目	自由	〇〇 科目	自由	〇〇 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>辞任した専任教員に係る授業科目全てについて、同科目を担当しうる能力をもつ教員に引き継がれており、学生の履修に支障はない。学生へは、シラバス及び学生便覧(履修の手引き)によって周知している。</p>

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
届 出 時 (令和3年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学研究科 教職開発専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>カリキュラム・ポリシー 以下の趣旨に基づいて教育課程を体系的に編成し実施します。</p> <p>1. 「専攻共通科目」（共通五領域）では、学校教育の基本となる課題について理論と実践の往還を通して学び、それに対応できる実践力を育みます。その中で、「奈良教育大学の3つの柱」の一つである「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」に即し、『ESD-SDGsの理論と実践』を配置します。</p> <p>2. 「実践科目」として「実習科目」と「演習科目」を配置します。「実習科目」では、授業・指導補助・校務等の経験を通して課題を探求し解決できる高度な実践力を育みます。「演習科目」では、これからの時代を見据えた新しい教育に対応できる実践力を育みます。</p> <p>3. 「研究科目」では、自らの課題を解決する研究力と、理論と実践とを架橋できる力量を育みます。また、研究の成果・在学中の学び・身に付けた力量を学位研究報告書としてまとめ、学び続ける態度を育みます。</p> <p>4. 「専門科目」として「学校教育マネジメント科目」「教育発達支援科目」「教科教育科目」を配置し、各コースに対応する実践力を育みます。</p>	<p>カリキュラム・ポリシーについて、令和3年度大学機関別認証評価での指摘を受けて下記の通り(2)教育課程における教育・学修方法に関する方針(3)学修成果の評価の方針を追記した。</p> <p>カリキュラム・ポリシー 以下の趣旨に基づいて教育課程を体系的に編成し実施します。</p> <p>(1)教育課程の編成の方針</p> <p>1. 「専攻共通科目」（共通五領域）では、学校教育の基本となる課題について理論と実践の往還を通して学び、それに対応できる実践力を育みます。その中で、「奈良教育大学の3つの柱」の一つである「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」に即し、『ESD-SDGsの理論と実践』を配置します。</p> <p>2. 「実践科目」として「実習科目」と「演習科目」を配置します。「実習科目」では、授業・指導補助・校務等の経験を通して課題を探求し解決できる高度な実践力を育みます。「演習科目」では、これからの時代を見据えた新しい教育に対応できる実践力を育みます。</p> <p>3. 「研究科目」では、自らの課題を解決する研究力と、理論と実践とを架橋できる力量を育みます。また、研究の成果・在学中の学び・身に付けた力量を学位研究報告書としてまとめ、学び続ける態度を育みます。</p> <p>4. 「専門科目」として「学校教育マネジメント科目」「教育発達支援科目」「教科教育科目」を配置し、各コースに対応する実践力を育みます。</p> <p>(2)教育課程における教育・学修方法に関する方針 本学教員は、学校現場における喫緊の教育課題への対応力、及び「持続可能な社会づくりの担い手」を育成できる高度な専門性と実践力を兼ね備えた教員としての資質・能力についての観点や内容を共有し、協働する体制で教育を進めます。また、学生それぞれのこれまでの経験・知識を活かし、互いに学び合う学修環境、支援体制の整備に努めます。</p> <p>(3)学修成果の評価の方針 全授業科目において、本専攻の理念・目的及びカリキュラム・フレームワークに即した到達目標を定め、到達目標並びに評価の基準・方法をシラバスによって学生と教員で共有し、成績評価を的確かつ厳正に行います。また、その成績評価結果や学生による授業評価結果を点検し、カリキュラムの評価・改善を図ることで教育の質の保証に努めます。</p>

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 本学においては、教育課程開発室の下にファカルティ・ディベロップメント（FD）専門部会を設置し、大学教員の職能成長を推進している。添付資料①「奈良教育大学教育課程開発室ファカルティ・ディベロップメント専門部会要項」のとおり。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和4年度については、現時点で未開催だが、6月以降に開催を予定している。</p>

c 委員会の審議事項等

FDに関する組織的な活動の企画及び実施に関すること、FDの推進に関することについて審議を行っている。

② 実施状況

a 実施内容

- (1) FD研修会・交流会の開催
- (2) 授業評価アンケート
- (3) 奈良教育大学教員のための研修プログラム

b 実施方法

- (1) 各年度2回程度開催しており、年度ごとに、「持続可能な社会の創り手の育成」「多様性をめぐる教育課題への向き合い方」「コロナ禍における大学での教育活動」といったその時々における教員の共通課題をテーマに定め、外部講師による講演や教員同士の交流を通じて、資質能力の向上を図っている。

(2) 授業評価アンケート

各学期末に授業評価アンケートを実施し、授業担当教員へ結果を通知している。教員はアンケートに記載された受講生の意見を踏まえ、授業の工夫・改善を行っている。アンケート結果及び結果を受けて教員が作成した「フィードバック・改善調査票」については、FD専門部会において内容確認を行い、FD事業を検討する際の参考資料としても利用している。また、アンケート結果については、学生にも結果を示している。

(3) 奈良教育大学教員のための研修プログラム

A「学校現場、及び本学の教育課題を理解する力量」、B「学校現場への関与と学生の実践的指導力育成に関わる力量」、C「教育と研究の往還に関わる力量」を身に付けるべき力量として示し、教員養成大学の教員としての実践力を高める研修プログラムを実施している。本学で企画する、学校現場や本学の教育課題に関わる研修への参加に加え、教育実習指導を始め、本学と教育委員会、学校との連携事業への参加、学校における授業研究への参画など、学校現場との関りをもつことや、教育実践に関わる活字発表などを研修の内容とし、全専任教員に課している。また、毎年研修の成果を報告することを義務付けている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- (1) FD研修会・交流会については、令和4年度は現時点で未実施だが、年2回の実施を予定している。関連して、4月6日(水)に「新任大学教員FD研修会(第1回)」を実施した。本年度4月に本学へ着任した教員8名全員が参加し、テーマである「奈良教育大学における教育課程と学生指導」について、理解を深めた。
- (2) 授業評価アンケートについては、令和4年度は現時点では未実施だが、年2回(各学期末)の実施を予定している。
- (3) 授業担当教員へアンケート結果を通知し、教員はアンケートに記載された受講生の意見を踏まえ、授業の専任教員全員(100%)が研修プログラムを受講し、報告書を提出している。今年度は、すでに「教員採用試験に関する研修」を全教員対象に実施している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- (1) 令和4年度については、多くのFD事業が現時点では未実施のため、今後実施し、授業改善に活用していく予定である。なお、4月に開催した「新任大学教員FD研修会」については、第2回の開催を7月～8月頃に予定している。第2回では、前期授業科目を振り返り、後期に向けて、授業改善に取り組む場として実施予定である。
- (2) c.に記載のとおり、年2回(各学期末)の実施を予定している。
- (3) 報告書による各教員からの研修報告や要望を踏まえ、本学主催のFD研修会の内容や方法を改善したり、各教員が学校現場の教育活動に関わる機会を作り提供するなど、研修プログラムを毎年度更新している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業担当教員へアンケート結果を通知し、教員はアンケートに記載された受講生の意見を踏まえ、授業の工夫・改善を行っている。アンケート結果及び結果を受けて教員が作成した「フィードバック・改善調査票」については、FD専門部会において内容確認を行い、FD事業を検討する際の参考資料としても利用している。アンケート結果については、学生にも結果を示している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

本校の専任教員、県・市・町教育委員会及び連携協力校の代表者を構成員として設置している。

委員の名簿については別添のとおり。

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

毎年度末に開催

c 委員会の審議事項等

学校実習をはじめとした教職大学院の教育課程、教育内容等について広く意見聴取する機会としている。本学や各連携協力校の実態、学生の取組、実習の方法等について忌憚なく感想・意見を交換する中で、次年度に向けた改善点を明確化している。これらの機会を活用し、実習の目的や内容、方法はもとより、教職大学院の趣旨や最新の動向についても説明している。

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

令和3年度末の開催において、以下の点について意見交換を行った。

- ・学校実習委員会での議事について
- ・令和4年度の教職大学院の学校実習教育の内容について
- ・教職大学院への要望等、実習生へのフォロー体制について

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

委員会での意見を踏まえ、令和4年度の実習案を見直した。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

委員会での協議により、連携協力校を新設（拡充）する方針となった。
委員会での協議を踏まえ、令和4年度の実習案を策定した。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学教育学研究科教職開発専攻（専門職学位課程）については、設置の趣旨・目的に沿って概ね計画どおりに運営がなされている。授業科目の担当教員等に若干変更が生じたものの、学生の履修は支障なく進められている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和10年3月

b 公表方法

大学ホームページ上に公開予定である。

③ 認証評価を受ける計画

令和8年度に教員養成評価機構の専門分野別認証評価、令和10年度に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の機関別認証評価を受ける計画である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。